

## 「ただ、おことばを下さい」(要旨)

聖書箇所：マタイ 8:1-17

## 【1】 痛みや苦しみを分かち合うこと

「イエスさまが、本当に平和をもたらす主として来てくださったのなら…」(トルケイ著『この世に生きる判事者』)

苦難や病、そして辛いことは、仲間と共に分かち合って対処することができれば、仲間同士の絆はさらに強まることでしょう。一方、かけることばが見つからないほどの大きな痛みを経験する人がいます。こうした痛みや苦しみの現実、人と人との間に分断を引き起こします。私たちは互いに分かち合うことで互いに励ましを受け、分かち合うことのできない事実を前に分断を経験します。今朝は、「ツアラアトに冒された人」、「中風のために寝込んでいた若者」、そして「熱を出して寝込んでいた女性」に注目します。彼らは当時のユダヤ人社会から排除された人々でした。イエスはその彼らとどう向き合われたのでしょうか。

## 【2】 イエスは手を伸ばして

古代世界において、最も恐れられていた病がツアラアトでした。その病に冒された人々は、死んだも同然と見なされ、社会から追放されました。人と接触することが禁じられ、人を近づかせないため「汚れている！」(レビ 14:45-46, 17:12)と叫ばなくてはなりません。そのツアラアトに冒された人がイエスに「主よ、お心一つで私をきよくすることがおできになります」(8:2)と懇願したのでした。イエスは、手を伸ばして彼にさわって「わたしの心だ。きよくなれ」(3)と言ってツアラアトをきよめられたのでした。家族すら手で触れることができませんでした。彼にとって、久しぶりの人の手の温もりでした。

次に登場したのが、百人隊長でした。彼は支配側の人間でした。しかしユダヤ人の信仰に共鳴した敬虔な人物でした(参考:ルカ

7:1-5)。彼はユダヤ人教師が異邦人の家を出入りしないことを知っていました。それで「ただ、おことばを下さい」(8:8)と願いました。百人隊長という職務上、権威ある者が発することばの力をよくわきまえていました。彼はイエスが病を癒すお方であると信じたので「ただ、おことばを下さい」と願いました。イエスは彼の信仰に驚き、「あなたの信じたとおりになるように」(13)と百人隊長を送り出しました。

三つ目のいやしは、イエスの弟子の家で行われました。病のため寝込んでいたのは、ペテロの姑でした。「当時、発熱は、他の病気に伴うものではなく、病気そのものとして扱われました。…ユダヤ教の教師は、熱のある人に触れることを禁じました」(Donald A. Hagner)。イエスはあえて彼女の手に触れて癒やされました。

## 【3】 イエスは私たちのわずらいを担い

その日の夕方、イエスのもとに助けを必要とする者たちが連れて来られました。イエスはことばをもって癒やされました。イエスのことばは、病を癒し悪霊を追い出す権威と力がありました。しかしイエスは、ツアラアトに冒された人、熱病に臥した人にあえて手を差し伸べたのです。社会から切り離され、誰も自分の痛みや苦しみを理解してくれないと孤独を覚える者に手を伸ばして下さり、「私たちのわずらいを担い、私たちの病を負った」(17)のです

▷主イエスは、分断された社会の現実の中で痛み、嘆き、そして途方に暮れる者の間に住まわれました(ヨハネ 1:14)。ゆえに「神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます」(IIコリント 1:4)

